



2010年3月期決算 プレゼンテーション資料

2010年4月
大阪ガス株式会社

I. 10.3期実績と11.3期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・篠山都市ガス・豊岡エネルギーは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

ただ今から、2010年3月期決算と2011年3月期見通しについて、ご説明させていただきます。

10.3期決算のポイント

■ 概況

- 連結売上高： 景気後退影響によるガス販売量の減少、LNG価格下落に伴う、原料費調整制度を通じたガス販売価格の下落、日商LPガスの元売・卸売部門の新会社への移管等によって、前年比17.3%減収の1兆966億円。
- 連結営業利益： LNG価格下落に伴う、原材料費の減少によるガス粗利益の増加、電力事業をはじめとする附帯事業利益の増加等により、前年比36.2%増益の911億円。スライド差益は267億円発生。

■ ガス販売量

- 家庭用は、前年並みの2,244百万m³。
- 業務用は、景気後退によるお客さま設備の稼働減少等によって、前年比5.0%減少の5,420百万m³。

■ 新規事業拡大投資

- 泉北天然ガス発電所、豪州ゴーン・プロジェクト、環境・非エネルギー事業等への投資を、計449億円実行。この他、姫路・岡山ラインの建設や、豪州風力発電事業への参画を意思決定。

2010年3月期は、減収・増益の決算となりました。

連結売上高は、景気後退の影響によりガス販売量が減少したことや、LNG価格の下落に伴い、原料費調整制度を通じてガス販売価格が下落したことに加え、日商LPガスの元売・卸売部門が、新会社ジャパン・ガス・エナジーへ移管されたこと等によって、前年と比べて17.3%減収の1兆966億円となりました。

連結営業利益は、LNG価格の下落に伴い原材料費が減少したことから、ガス粗利益が増加したほか、電力事業をはじめとする附帯事業利益が増加したこと等から、前年と比べて36.2%増益の911億円となりました。なお、スライド差益は267億円発生しています。

ガス販売量については、家庭用が、前年並みの22億4,400万m³、業務用は、前年を5%下回る54億2,000万m³となりました。

新規事業拡大投資については、泉北天然ガス発電所、オーストラリアのゴーン・プロジェクト、不動産事業、先端材料事業等へ、合計449億円の投資を実行しました。この他、姫路・岡山ラインの建設や、オーストラリアの風力発電事業への参画を意思決定しました。

10.3期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 10.3期	B. 09.3期	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	6,980	6,939	+41	+0.6%
	新設工事件数(千件)	85	112	-28	-24.6%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	32.3	32.3	0	+0.1%
	家庭用	2,244	2,238	+5	+0.2%
	商・公・医療用	1,543	1,581	-37	-2.4%
	工業用	3,877	4,128	-250	-6.1%
	業務用計	5,420	5,708	-288	-5.0%
	他ガス事業者向け	455	434	+21	+4.9%
	(うち大口供給)	(4,576)	(4,834)	(-258)	(-5.3%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,119	8,380	-261	-3.1%
連結ガス販売量	8,150	8,416	-265	-3.2%	

2010年3月期のガス販売実績について、ご説明します。

大阪ガス個別のガス販売量は、前年を3.1%下回る81億1,900万m³となりました。

家庭用は、前年並みの22億4,400万m³となりました。

商業・公・医療用は、夏場の気温が前年に比べ低く推移したことによる冷房需要の減少や、お客さまの省エネルギー推進等により、前年を2.4%下回る15億4,300万m³となりました。

工業用は、新規需要開発による販売量の増加はあったものの、景気後退によるお客さま設備の稼働減少の影響が大きく、前年を6.1%下回る38億7,700万m³となりました。景気回復の兆しは見られますが、まだ回復途上にあると考えています。ご参考資料として、25ページに工業用ガス販売量の月別の推移を示しておりますので、あわせてご覧下さい。

10.3期実績 I

連結：億円、()内は連単倍率

	A. 10.3期	B. 09.3期	A-B	A-B/B (%)	備考
売上高	(1.30) 10,966	(1.37) 13,267	-2,301	-17.3%	ガス販売単価の減少、LPG関係会社の事業移管等
営業利益	(1.51) 911	(1.77) 669	+242	+36.2%	ガス粗利益の増加等
経常利益	(1.32) 848	(1.71) 645	+202	+31.5%	営業利益の増加、持分法投資利益の減少等
当期純利益	(1.21) 483	(1.50) 360	+123	+34.2%	
SVA	140	51	+88	+173%	

	A. 10.3期	B. 09.3期	A-B
連結ガス販売量	百万m ³ 8,150	8,416	-265
為替レート	円/\$ 92.9	100.5	-7.6
原油価格	\$/bbl 69.4	90.5	-21.1
連結子会社数	128	136	-8

10.3期の原油価格実績は、3月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

Design Your Energy 夢ある明日を


2010年3月期の決算数値をお示しします。

先にご説明した通り、売上高は、前年と比べて2,301億円減少の1兆966億
 円に、営業利益は、前年と比べて242億円増加の911億円となりました。

経常利益については、原油価格の下落により、北海油田の持分法投資利
 益が減少したこと等から、営業利益より増益幅は小さく、前年と比べて202億
 円増の848億円となりました。

連結子会社は、前年末から8社減少の128社となりました。また、持分法適
 用会社は、日商LPガスの元売・卸売部門の移管に伴って、ジャパン・ガス・
 エナジーが加わり、現在6社となっています。

10.3期実績 II

連結:億円	A. 10.3末	B. 09.3末	A-B	備考
総資産	14,838	14,524	+314	現預金の増加等
自己資本	6,666	6,125	+541	
有利子負債	5,390	5,734	-344	社債償還等
在籍人員	19,268	19,009	+259	
自己資本比率	44.9%	42.2%	+2.8%	
	A. 10.3期	B. 09.3期	A-B	備考
設備投資	982	1,060	-78	
減価償却費	954	865	+88	泉北天然ガス発電所減価償却費の増加
フリーキャッシュフロー	1,754	562	+1,191	利益増・棚卸資産減による営業CFの増加
ROA	3.3%	2.5%	+0.8%	
ROE	7.6%	5.7%	+1.9%	
EPS (円/株)	22.5	16.7	+5.8	
BPS (円/株)	310.4	284.2	+26.2	

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

6

 OSAKA GAS

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

利益が増加したことや、原料在庫が減少したこと等から、フリーキャッシュフローは、前年に比べて大きく増え、1,754億円となりました。

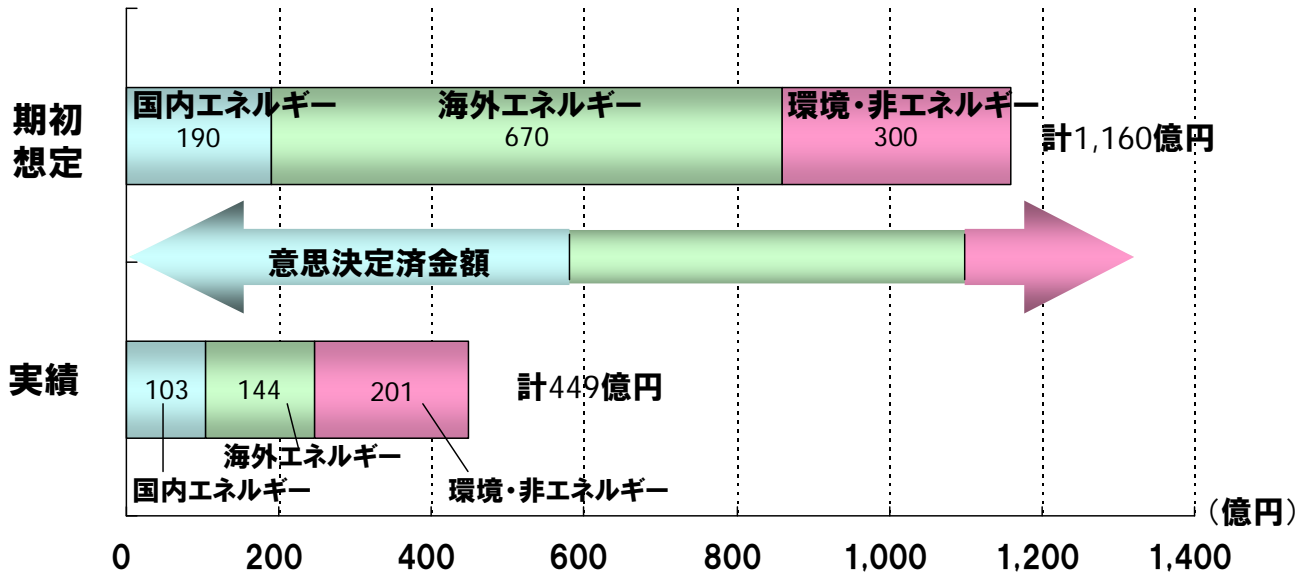
フリーキャッシュフローの増加に対応して、有利子負債は、前年末から344億円減少の5,390億円となりました。

設備投資については、三重・滋賀ラインの建設や、ゴーゴン・プロジェクトの権益取得等を行いました。一方で、泉北天然ガス発電所の建設やLNG船の建造が終了したことから、前年を78億円下回る982億円となりました。

減価償却費については、泉北天然ガス発電所の4機の電源が、4月以降順次稼動したこと等により、前年を88億円上回る954億円となりました。

10.3期新規事業拡大投資実績

- 泉北天然ガス発電所、豪州ゴーゴン・プロジェクト、環境・非エネルギー事業等への投資を、計449億円実行。
- 期初想定は下回ったものの、姫路・岡山ラインの建設、豪州ゴーゴン・プロジェクトや豪州風力発電事業への参画等の大型投資を意思決定。



FCF=営業活動によるキャッシュフロー-設備投資による支出。設備投資には既存事業品質向上投資を含まず。
投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なる。

Design Your Energy 夢ある明日を
OSAKA GAS

先にご説明した通り、新規事業拡大投資は、支払いベースで合計449億円の投資を実行しました。

期初の想定額を下回ってはおりますが、姫路・岡山ラインの建設や、オーストラリアの風力発電事業への参画等、この1年間で1,300億円強を意思決定しており、中長期経営計画で掲げた新規事業拡大投資計画は、順調に進捗していると考えています。

11.3期経営方針

■ 活動方針

「アクション」

- 「Field of Dreams 2020」実現に向けた取り組みを強力に推し進める。

■ 重点課題

(1) サービスレベル向上と低炭素社会の実現

[家庭用市場]

- 分散型発電・再生可能エネルギー(太陽光発電・W発電)の普及促進
- スマートエネルギーハウス実証実験

[業務用市場]

- 熱需要(工業炉・ボイラ・厨房)向け販売拡大
- エネルギーサービスプロバイダー事業展開

(2) ビジネスフィールドの拡大

(3) 社会的責任を果たす(安定供給、保安、CSR)

- 中長期のLNG安定調達
- 導管ネットワーク基盤の強化(三重・滋賀ライン、姫路・岡山ラインの建設)

続いて、2011年3月期の見通しについて、ご説明します。

2011年3月期は、中長期経営計画「Field of Dreams 2020」実現に向けた取り組みを強力に推し進める年として、

- (1) サービスレベル向上と低炭素社会の実現
- (2) ビジネスフィールドの拡大
- (3) 社会的責任を果たす

の3点を重点課題として取り組む方針です。

11.3期見通しのポイント

■ 概況

- **連結売上高**：ガス販売量の増加、原油価格の上昇を想定したことによる、原料費調整制度を通じたガス販売価格の上昇等を織り込み、前年比7.1%増収の1兆1,750億円を見込む。
- **連結営業利益**：ガス販売量の増加による粗利益の増加、諸経費の削減、関係会社の利益貢献を織り込むものの、原油価格の上昇により、スライド差損が175億円発生すると想定、前年比20.5%減益の725億円を見込む。

■ ガス販売量

- **家庭用**は、お客さま数の伸び等により、前年比1.7%増の2,282百万m³を見込む。
- **業務用**は、緩やかな景気回復に伴うお客さま設備の稼働増や新規需要開発によって、前年比0.5%増の5,448百万m³を見込む。

■ 新規事業拡大投資

- 前年を上回る850億円の投資を計画。

2011年3月期は、増収・減益の見通しとしています。

連結売上高は、ガス販売量の増加に加えて、原油価格の上昇を想定したことによる、原料費調整制度を通じたガス販売価格の上昇等を織り込み、前年を上回る1兆1,750億円を見込んでいます。

連結営業利益は、ガス販売量の増加による粗利益の増加、諸経費の削減、関係会社の利益貢献等により、実力ベースの利益は向上するものの、スライド差損が175億円発生すると想定していることから、前年を下回る725億円を見込んでいます。

ガス販売量については、家庭用で、前年を1.7%上回る22億8,200万m³、業務用で、前年を0.5%上回る54億4,800万m³を見込んでいます。

新規事業拡大投資は、引き続き積極的に進め、前年を上回る850億円の投資を計画しています。

11.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 11.3期 見通し	B. 10.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,010	6,980	+31	+0.4%
	新設工事件数(千件)	67	85	-18	-21.4%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	32.8	32.3	+0.5	+1.7%
	家庭用	2,282	2,244	+38	+1.7%
	商・公・医療用	1,517	1,543	-26	-1.7%
	工業用	3,931	3,877	+54	+1.4%
	業務用計	5,448	5,420	+28	+0.5%
	他ガス事業者向け	440	455	-15	-3.2%
	(うち大口供給)	(4,625)	(4,576)	(+49)	(+1.1%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,170	8,119	+51	+0.6%
連結ガス販売量	8,202	8,150	+52	+0.6%	

2011年3月期のガス販売量は、前年を0.6%上回る81億7,000万m³を見込んでいます。

用途別には、家庭用で、お客さま数の伸び等により、前年を1.7%上回る22億8,200万m³を見込んでいます。

商業・公・医療用は、環境意識の高まりによる、お客さまの省エネルギー推進等により、前年を1.7%下回る15億1,700万m³を見込んでいます。

工業用では、緩やかな景気回復に伴うお客さま設備の稼働増加や、新規需要開発によって、前年を1.4%上回る39億3,100万m³を見込んでいます。

11.3期見通し I

連結：億円、()内は連単倍率

	A. 11.3期 見通し	B. 10.3期 実績	A-B	A-B/B (%)
売上高	(1.30) 11,750	(1.30) 10,966	+783	+7.1%
営業利益	(1.73) 725	(1.51) 911	-186	-20.5%
経常利益	(1.56) 655	(1.32) 848	-193	-22.8%
当期純利益	(1.40) 370	(1.21) 483	-113	-23.5%
SVA	40	140	-100	-71.5%
連結ガス販売量	百万m ³ 8,202	8,150	+52	
為替レート	円/\$ 95	92.9	+2.1	
原油価格	\$/bbl 80	69.4	+10.6	

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

11

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

こちらでは、先にご説明しました2011年3月期見通しの数値をご確認下さい。

なお、為替レートは、前年より2.1円円安の、1ドルあたり95円、原油価格は、前年より10.6ドル高い、1バレルあたり80ドルを想定しています。

11.3期見通し II

連結:億円	A. 11.3末見通し	B. 10.3末実績	A-B
総資産	14,896	14,838	+57
自己資本	6,825	6,666	+158
有利子負債	5,497	5,390	+106
在籍人員	19,546	19,268	+278
自己資本比率	45.8%	44.9%	+0.9%

	A. 11.3期見通し	B. 10.3期実績	A-B
設備投資	836	982	-145
減価償却費	984	954	+30
フリーキャッシュフロー	515	1,754	-1,238
ROA	2.5%	3.3%	-0.8%
ROE	5.5%	7.6%	-2.1%
EPS (円/株)	17.2	22.5	-5.3
BPS (円/株)	317.8	310.4	+7.4

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)−通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

12

 OSAKA GAS

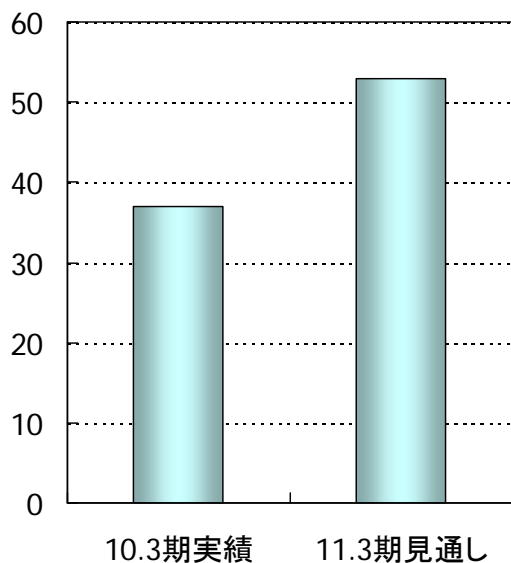
資産・負債項目や、主な財務指標の見通しは、ご覧の通りです。

設備投資については、三重・滋賀ラインや姫路・岡山ラインの建設等で、836億円を見込んでいます。

減価償却費については、泉北天然ガス発電所の減価償却費が増えることから、前年を30億円上回る984億円となる見通しです。

新規事業の利益貢献

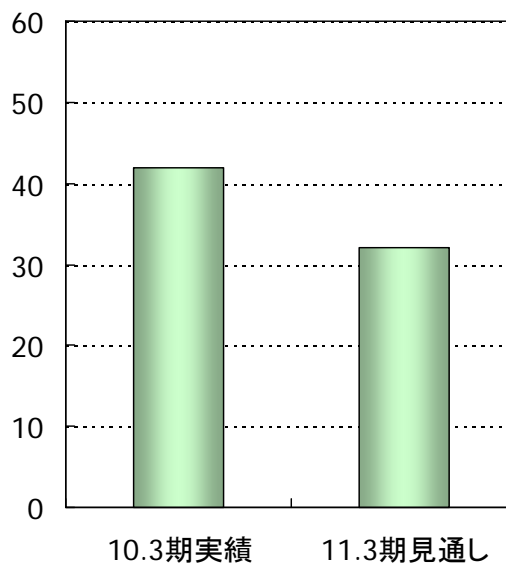
(億円) 国内電力事業



- 泉北天然ガス発電所が通年で稼働すること等から、11.3期は貢献利益の増加を見込む。

営業利益および持分法投資利益(のれん償却後)の合計を表示。
国内電力事業は、大阪ガスの附帯電力事業営業利益を表示。

(億円) 海外事業



- 一部IPPで大型点検が実施されること等から、11.3期は貢献利益の減少を見込む。

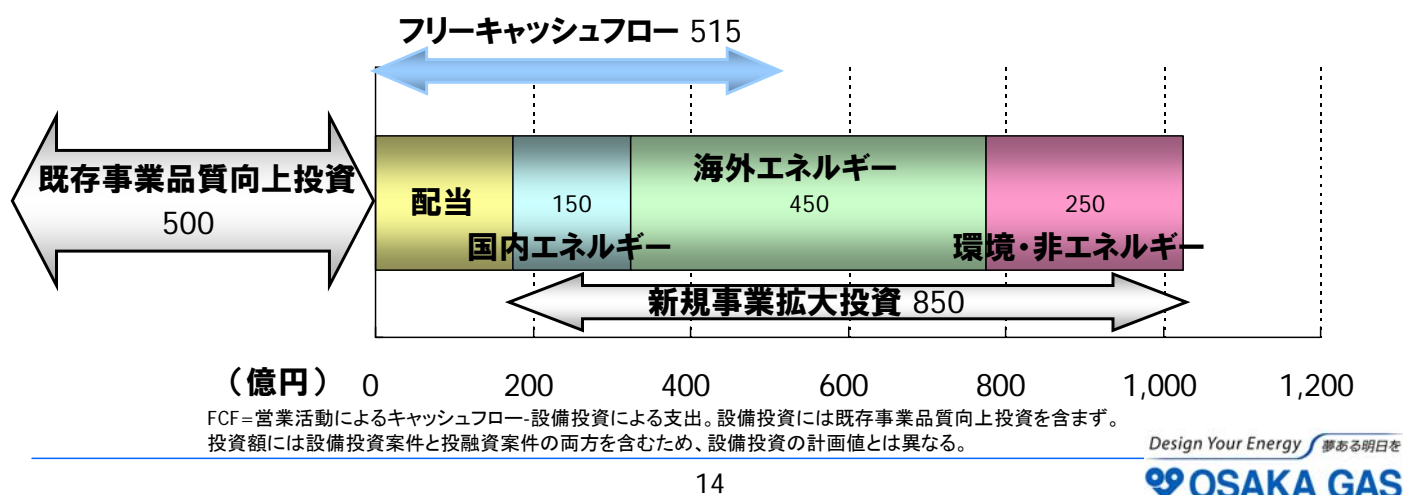
続いて、新規事業の利益貢献状況について、ご説明します。

電力事業については、泉北天然ガス発電所が順調に立ち上がったこと等から、2010年3月期に40億円弱の利益貢献がありました。2011年3月期は、泉北天然ガス発電所が通年で稼働すること等から、利益貢献は50億円を超える見通しです。

海外事業については、北海油田やIPP事業等で、2010年3月期に40億円程度の利益貢献がありました。ただし、2011年3月期には、一部のIPPで大型点検が実施されること等から、利益貢献は30億円程度になる見通しです。

11.3期連結FCFの使途

- 11.3期のFCFは、対前期比1,238億円減の515億円となる見通し。
- 新規事業拡大投資は、10.3期実績を上回る850億円の見通し。国内エネルギーサービス事業で、基幹導管建設を進めるほか、海外エネルギーバリューチェーン事業では、引き続き案件の発掘と取得を行う。
- 11.3期は、1円/株の増配となる年間配当8円/株を目指す。



最後に、フリーキャッシュフローの使途についてご説明します。

2011年3月期のフリーキャッシュフローは、515億円となる見通しです。フリーキャッシュフローに借入金を加えて、前年実績を上回る、総額850億円の新規事業拡大投資の実行を見込んでいます。

国内エネルギーサービス事業では、三重・滋賀ラインや姫路・岡山ライン等の基幹導管の建設を進めます。

海外エネルギーバリューチェーン事業では、引き続き、案件の発掘・取得に努めるほか、環境・非エネルギー事業では、収益不動産の取得等を進めます。

2011年3月期以降は、泉北天然ガス発電所の通期の稼働や、関係会社事業の着実な成長等、これまでの投資により、確実な収益が見込まれ、さらに、今後の増益に繋がる、新規事業拡大投資の意思決定も着実に進んでいることから、2011年3月期に、1株あたり1円の増配となる、年間8円の配当を目指すこととしました。

以上で、2010年3月期決算と2011年3月期見通しについてのご説明を終わらせていただきます。

II. 参考資料

10.3期決算の主な差異(対09.3期)

単位:億円

売上高	-2,301	個別	-1,278	ガス売上 -1,411 営雑 -95(受注工事-66、器具販売-44等) 附帯 +229(電力+287、LNG販売-56等)
		連結子会社	-1,023	日商LPG -814(元売・卸売部門の新会社への移管) 国内IPP3社-96(電力販売量減) オージス総研グループ -50(受注減少) リキットガス -42(LPG販売単価下落・販売量減少)
営業費用	-2,543			
営業利益	+242	個別	+225	ガス粗利 +407 (スライト影響+522、料金改定-29、数量差等-85) 費用増 -262(労務費増-84、諸経費増-175等) 附帯差益 +78(電力・LNG販売等)
		連結子会社等	+16	国内IPP3社 +12(燃料価格下落)
経常利益	+202			持分法投資利益-62

11.3期見通しの主な差異(対10.3期)

単位:億円

売上高	+783	個別	+629	ガス売上 +409
		連結子会社		+153
営業費用	+970			アーパネックス +73(分譲販売戸数増) 大阪ガスメゾン +52(分譲販売戸数増) 日商プロパン石油 +16
営業利益	-186	個別	-184	ガス粗利 -351 (スライト'影響-442、数量差等+91) 費用減 +171(諸経費減+176等)
		連結子会社等	-1	
経常利益	-193			

セグメント別実績

単位:億円	売上高		営業利益		備考
	10.3期	09.3期	10.3期	09.3期	
ガス	6,740	8,143	530	376	売上:ガス販売単価の下落 利益:LNG価格の下落(原料費減)
LPG・電力・ その他エネルギー	1,713	2,496	207	91	売上:日商LPG(-814:事業再編) 利益:OG(+76:電力,LNG販売) CTS(+10:燃料価格下落他)
器具及びガス工事	1,275	1,415	14	26	受注工事件数減
不動産	327	331	64	69	OGメゾン(分譲販売戸数の減)
その他	1,609	1,652	83	96	売上:オージス(-23),さくら(-21) 利益:オージス(-6),OGスポーツ(-5)
消去又は全社	-700	-772	11	9	
連結	10,966	13,267	911	669	

日商LPG:日商LPガス、OG:大阪ガス、CTS:クリエイティブテクノロジーソリューション、OGメゾン:大阪ガスメゾン、オージス:オージス総研、さくら:さくら情報システム

セグメント別見通し

単位:億円	11.3期見通し	
	売上高	セグメント利益
ガス	8,700	380
LPG・電力・その他エネルギー	1,720	160
海外エネルギー	110	30
環境・非エネルギー	1,870	150
消去又は全社	-650	15
連結	11,750	735

セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

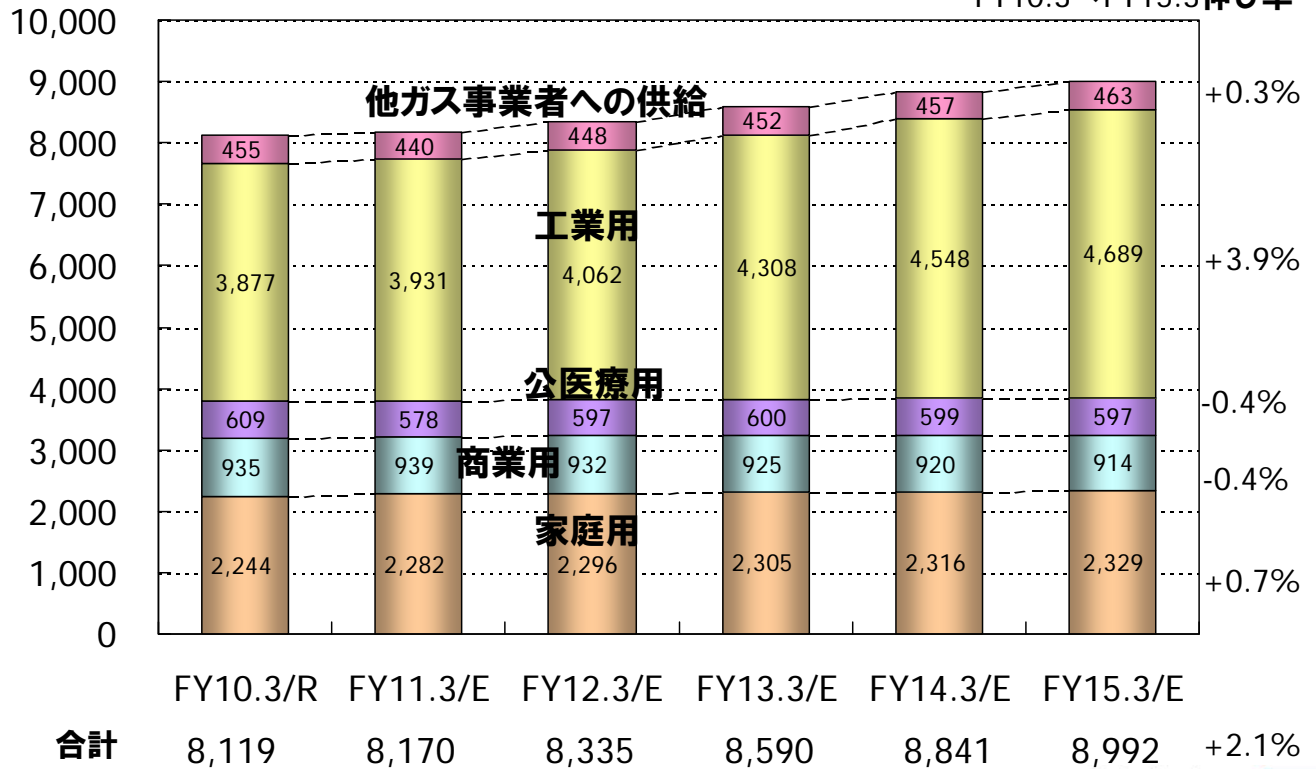
11.3期よりセグメントを変更します。10.3期までのセグメントとの関係はおおむね次の通りです。

変更前(10.3期まで)	変更後(11.3期から)
ガス 器具及びガス工事	ガス
LPG・電力・その他エネルギー	LPG・電力・その他エネルギー 海外エネルギー
不動産 その他	環境・非エネルギー

ガス販売(個別)の中期見通し

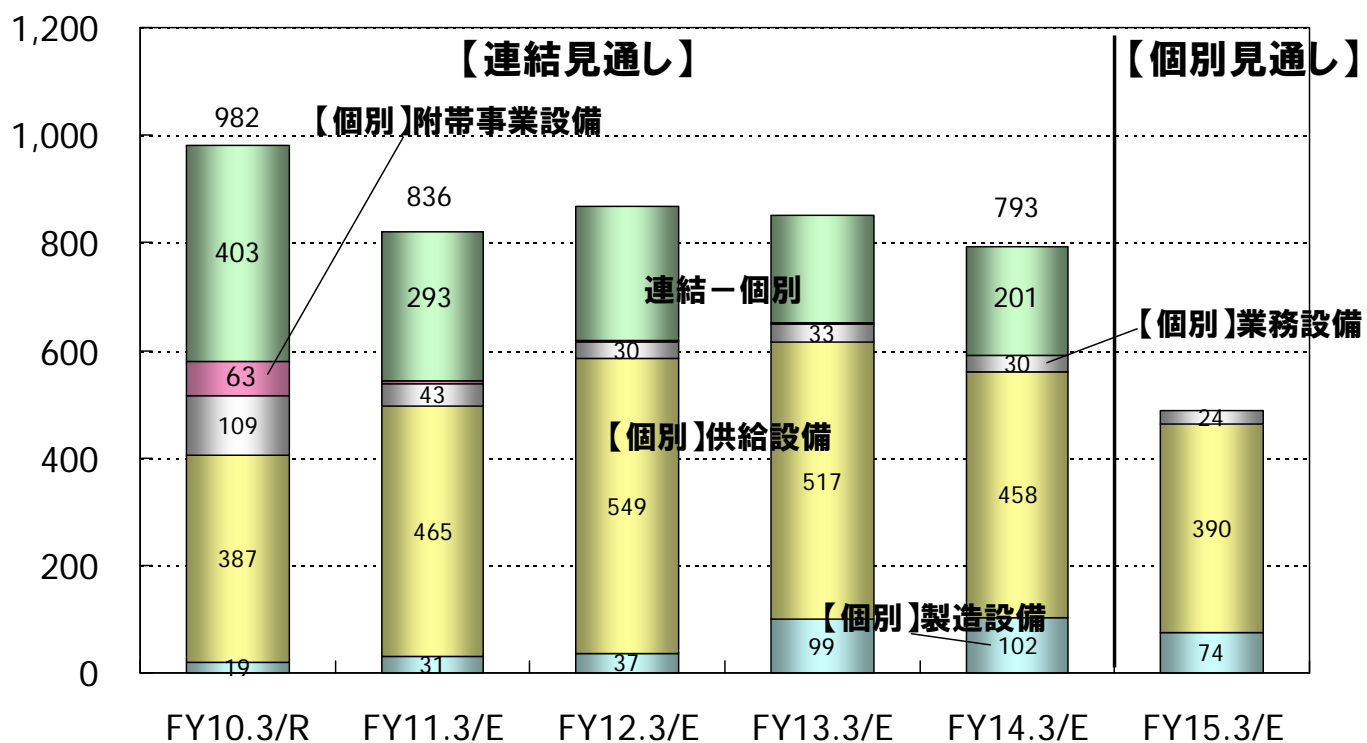
(45MJ, 百万m³)

FY10.3→FY15.3伸び率



設備投資の中期見通し

連結：億円



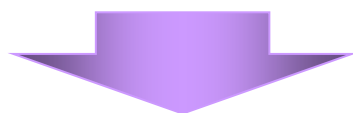
Design Your Energy 夢ある明日を



家庭用ガス販売

10.3期実績

	対前期	備考
調定件数	+0.1%	
気温影響	+1.2%	平均気温17.0度(対前期-0.2度)
その他	-1.1%	
合計	+0.2%	



11.3期見通し

- 平年気温を前提とし、戦略機器の拡販効果等を織り込むことで、対前期比+1.7%、約38百万m³増の2,282百万m³と想定。

商・公・医療用ガス販売

10.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+2.7%	商業用大型物件や公用物件の新規稼動
気温日数影響	-0.6%	夏場の低気温による冷房需要の減少
その他	-4.5%	お客さまの省エネルギー推進など
合計	-2.4%	



11.3期見通し

- 平年気温を前提として、お客さま先での省エネルギー推進の影響等を織り込み、対前期比-1.7%、26百万m³減の1,517百万m³と想定。

工業用ガス販売

10.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+3.2%	新規物件の稼働開始
稼働増減等	-9.3%	お客さま設備の稼働減少等
合計	-6.1%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比	対前々期比
化学	1,103	100.2%	88.2%
金属	897	87.6%	88.9%
食品	492	98.2%	97.6%
機械	362	85.9%	86.6%
ガラス	253	114.4%	137.6%

11.3期見通し

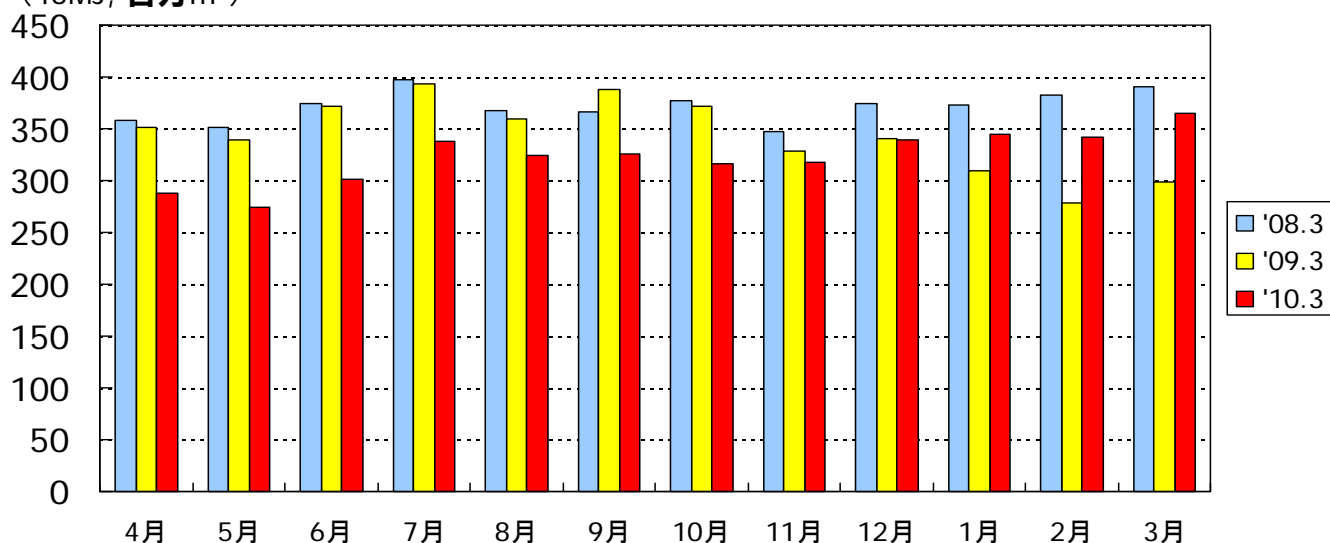
- 油燃料を中心とした他燃料転換を継続、都市ガスの高い環境性をもとにエンジニアリング力を発揮した省エネ提案を行うとともに、お客さま設備の稼働増加により、対前期比+1.4%、54百万m³増の3,931百万m³と想定。

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

工業用ガス販売の月別推移

(45MJ, 百万m³)

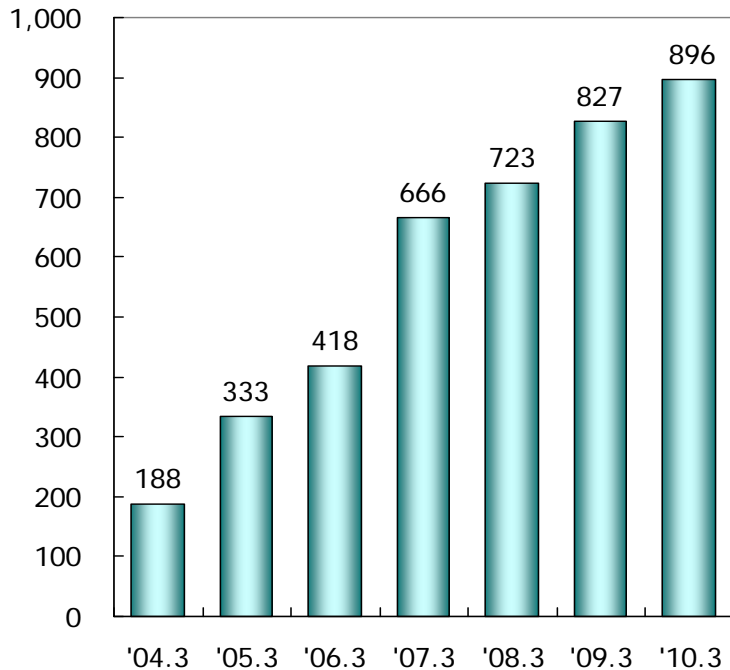


10.3期の月別比較(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
対08.3期比	80.5	78.5	80.5	85.1	88.2	89.2	83.8	91.8	90.4	92.4	92.4	93.5
対09.3期比	82.0	81.1	81.1	86.0	90.4	84.0	85.1	96.8	99.6	111.3	122.8	122.6

- 10.3期は、12月に前年並みとなり、1月以降、前年を上回っているものの、前々年の水準には達していない。

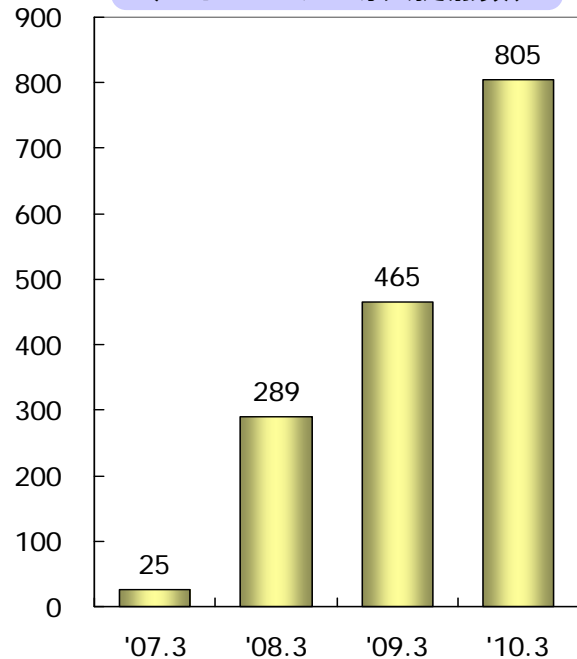
エネルギーサービス

Eco Wave契約件数



EcoWaveとは、大阪ガスグループが省エネ性の高いコージェネレーション設備や天然ガスを使用した空調設備等をお客さまの敷地内に設置させていただき、お客さまは初期投資をすることなく、ご使用になられたエネルギー量に応じたエネルギーサービス料金をお支払いいただくことで、省エネと省コストの両方を実現できる、環境にやさしいビジネスモデルです。

ITによるエネルギーマネジメント
(エネフレックス導入拠点数)

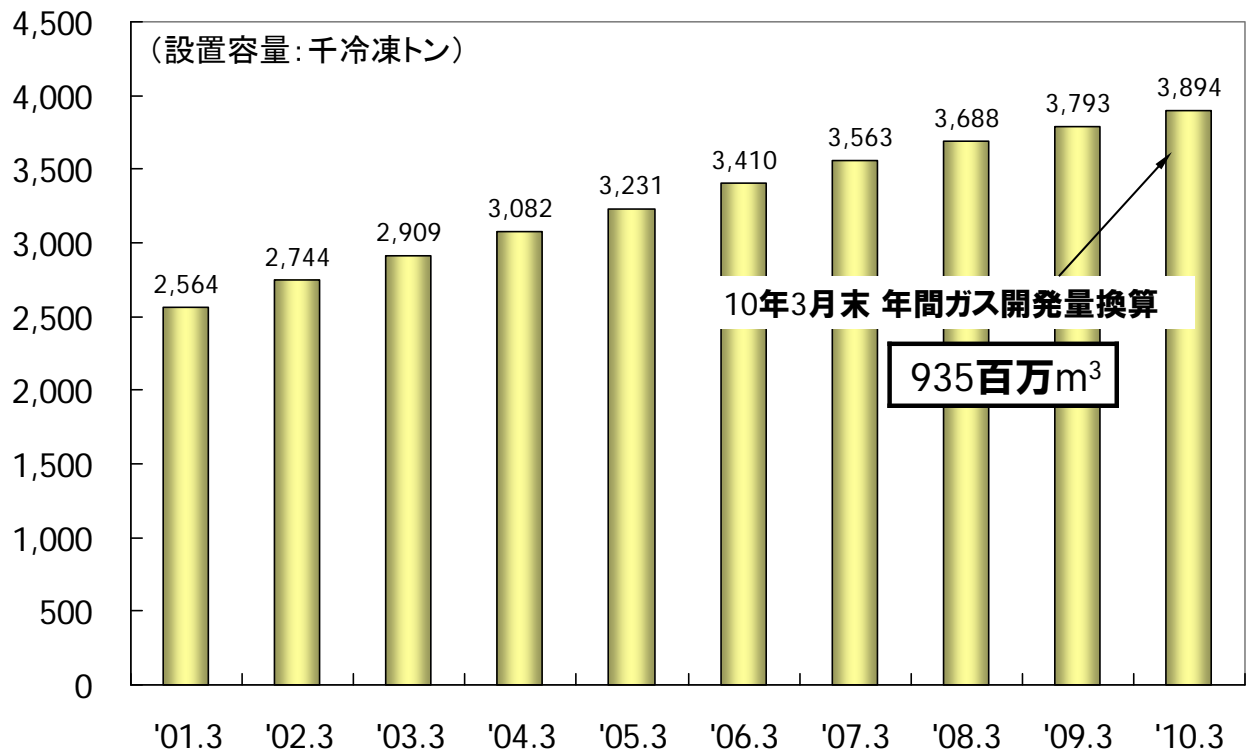


「エネフレックス」は、大阪ガスの遠隔監視システムで収集されたお客さまガス機器の運転状況をインターネットを利用してお客さまに提供するサービスです。

Design Your Energy 夢ある明日を



ガス空調需要開発



吸収式・GHP含むストックボリューム。換算は、1冷凍トン=3.516kW=240m³/年

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

年度見通しに対するリスク要因

- **気温・水温**
 - 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。
- **原油価格**
 - LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度の粗利益は9億円変動する可能性がある。
- **為替レート**
 - LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度の粗利益は9億円変動する可能性がある。
- **原料費**
 - 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。
 - LNG調達先との契約更改・価格交渉の結果、原料費の精算が発生する可能性がある。
- **金利**
 - 金利1%の変動に対して、連結営業外費用が年間4億円変動する可能性がある。